

① ジェイハンス

モノづくり
モノがたり

企業、時代、ECストーリー



創業者の山口宗晃氏

わりはな
い。京都発の
和小物を企
画、EC展
開するジェ
イハンス
(京都市)
の前身は1
963年に
京都府北部
にある綾部
市に誕生し
た小さな工

京都の町を歩くと、観光客や修学旅行生たちが、熱心にみやげを買い、姿を見かける。

そもそも「みやげ」は「宮詣」と書き、旅先で授かったお札などを贈って、神仏の恩恵を分かち与える意味があったという。現在のみやげは本来の意味とは離れてしまっ

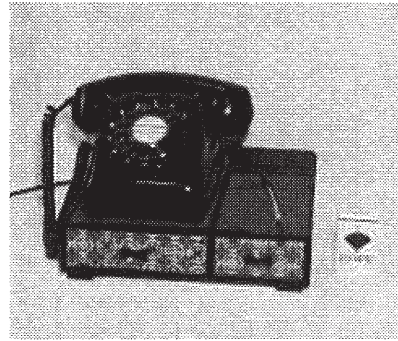
てはいるが、故郷で待つ家族や友人に思いを馳せて買い求める気持ちにか

房だった。綾部は古くから養蚕が盛んな土地で、グンゼの創立以来、日本有数の製糸業地となり、ナイロン婦人靴下などを生産する繊維産業の盛んな街である。良質の和紙や染紙などが全国的に知られている。

綾部に生まれた創業者

京都発の和小物をつくり続けて

創業当時のちりめん小物入れ

として世界から
注目を浴びた。

復興の象徴でも
ある東京オリ
ンピックが開催さ
れ、東京、新大
阪間を「ひかり」
が4時間で結ん
だ。ミロのビー
ナスがパリのルー
ブル美術館から
貸し出され、

・山口宗晃(むねあき)氏は18歳のころから、みやげものを卸す叔父の問屋を手伝っていた。宗晃氏は熱心に仕事を学び26歳で独立する。

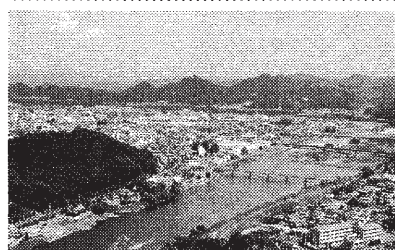
叔父のアドバイスに従い、みやげをつくる小さな工房を綾部に設立する。「ガラスケースに金關寺や五重塔が入っているような観光みやげをつくっていたと聞いています」(現社長の山口雅也氏)。

当時の日本は「戦後」から大きく脱却している時期だった。日本の経済発展は「戦後復興の奇跡」

うです」(同)。

その年は大阪万博が開催され、全国から関西へ観光客が訪れた。

(次号へ続く)



会社プロフィール…1963年に京都府綾部市で創業。現本社所在地は京都市下京区。社員数6人。創業時は京都みやげ中心の商品ラインナップだったが、跡を継いだ三代目・雅也氏の代になり、和のデザインを生かしたノベルティグッズ企画やネットショップ運営に力を入れる。楽天市場、ヤフーに〈京都 洛〉を出店中。「ちりめん」などの布を使った「貼り物」と呼ばれる工芸品の仕上がりの丁寧さや完成度は業界で有名。(写真は現在の綾部市街地)

万博開催で全国から観光客が